

(1→3) β -D-グルカン測定試薬3種の比較検討

◎辰己 菜々子¹⁾、榎 亮¹⁾、岡田 麻里子¹⁾
株式会社 兵庫県臨床検査研究所¹⁾

【はじめに】

(1→3)- β -D-グルカン (BDG) 測定は、深在性真菌症の診断補助として用いられており、当社では比濁時間分析法を原理とする富士フイルム和光純薬株式会社の「 β -グルカンテストワコー」(和光比濁法)を使用している。今回、我々はBDGの測定時間が短縮される発色合成基質法の「 β -グルカンシングルス M30 テストワコー」(和光比色法)、及び島津ダイアクノスティクスの「ファンギテック®G テスト ES」(島津比色法)の臨床性能の比較検討を行ったので報告する。

【方法】

2024年7月から2024年10月まで、 β -グルカンテストワコー(比濁時間分析法)で測定した検体を使用、発色合成基質法のBDG測定試薬「 β -グルカンシングルス M30 テストワコー」はリムセイブ MT-7500を用いて測定、ファンギテック®G テスト ESはESアナライザーで測定した。

【結果】

和光比濁法と和光比色法の比較は、相関係数は0.98、回帰

式は $y = 0.88x + 0.423$ と和光比色法がやや低値となる傾向が見られ、定性値での比較では陰性となる例が多く、判定一致率は88.5%となった。また、和光比濁法と島津比色法の比較では相関係数は0.95、回帰式は $y = 1.65x + 7.130$ と島津比色法が高値となったが、定性値の比較では判定一致率は92.6%と高いデータを示した。

【考察】

継続してBDGを測定している症例では、すべての試薬の測定値は同様の推移をしていた。また、乖離した症例でもすべての試薬がカットオフ値付近の測定値を示し、同等の性能であると思われるが、発色合成基質法の「ファンギテック®G テスト ES」が最も高い感度を示した。

【結語】

「 β -D グルカンシングルス M30 テストワコー」および「ファンギテック®G テスト ES」の臨床性能は良好であり、測定時間の大幅な短縮が見込まれることから、発色合成基質法は、より迅速な深在性真菌症診断に貢献し得ると考えられる。 連絡先: (株)兵庫県臨床検査研究所 079-267-1251